

アイフェスタ 2025 in 神戸 参加報告（IVR 音声ガイダンス展示）

日本初の視覚障害者向け IVR で支えるロービジョンケア 明石南高校の挑戦

11月30日（日）に中山記念会館（神戸市兵庫区）で開催された「アイフェスタ 2025 in 神戸」（第20回 見えない・見えにくい人のための総合福祉機器展）に、本校の有志生徒6名が参加しました。会場には、見えにくさを補う最新の福祉機器や便利グッズの展示、相談・体験コーナーなどが設けられ、多くの来場者でにぎわいました。

本校は、兵庫県眼科医会ロービジョン委員会からの依頼を受け、地域貢献活動・DX 加速化推進の一環として、既存システムを活用した「ロービジョンケアに関する施設や団体を案内する IVR（電話自動音声ガイダンス）システム」を共同で制作し、完成したものの実演展示を実施しました。

IVR システムは、利用者が電話をかけると、学習・生活・就労支援や見えにくい方とのつながりなど、状況に応じて必要な窓口や支援機関の連絡先を音声メニューとして提供し、同じ内容を SMS（ショートメッセージサービス）により情報提供をするしくみです。生徒は、兵庫県眼科医会でガイダンスフローを整理したものを「利用者が聞き取りやすくなるように工夫した文脈や SMS による情報提供など、利用者の立場に立った設計・構築」を行いました。

会場では、来場者に IVR システムを体験してもらい、生徒がシステムの目的や操作方法、制作した画面や工夫点を説明することで、多くの方に关心を持っていただけました。

参加生徒の感想

・「自分なりに工夫されている方も多数いて、その工夫に応じた対応を考えることの大切さを実感しました。」

・「生活に不自由がないようにするために、どのようなものがあれば良いかを考えて作られている機器がたくさんあると感じました。」

生徒は今回のイベント参加ことで、情報技術が福祉や暮らしの安心にどのように役立つかを体験的に学びました。今回直接お伺いした改善点も含めて、引き続きよりよいシステム構築につなげていきます。

